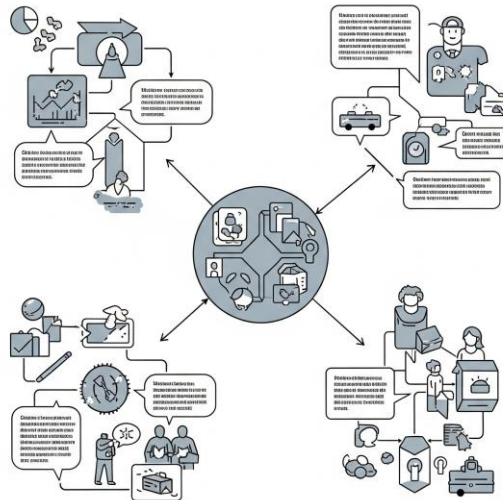


黄金4図（GFDG4D）で描く！未来創造の実践法 ～「何がしたいか」を明確にする、あなた自身の羅針盤～

 Golden Four Diagrams



2025年8月28日
ITエンジニア／コンサルタント
赤 俊哉
E-mail: toshiya.seki28496@gmail.com
Facebook・Linkedin・X

ご挨拶

本日はスクエアFreeセミナーに参加いただき、誠にありがとうございます。

これからお話しするのは、単なる資料や図面を作るという話ではありません。

未来への『物語』です。

本日お話しする『黄金4図』という実践メソッドは、まさにその物語を紡ぐための羅針盤です。

皆さんが心の中に描いている未来の物語を創造するための第一歩となることを願っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

- 「叩き上げの現場経験」
 - × 「実践メソッド開発」
 - × 「実践実績」
- ビジネスとITの両面を知る
『実行型エンジニア兼コンサルタント』
- 黄金4図のミッショナリー



Agenda

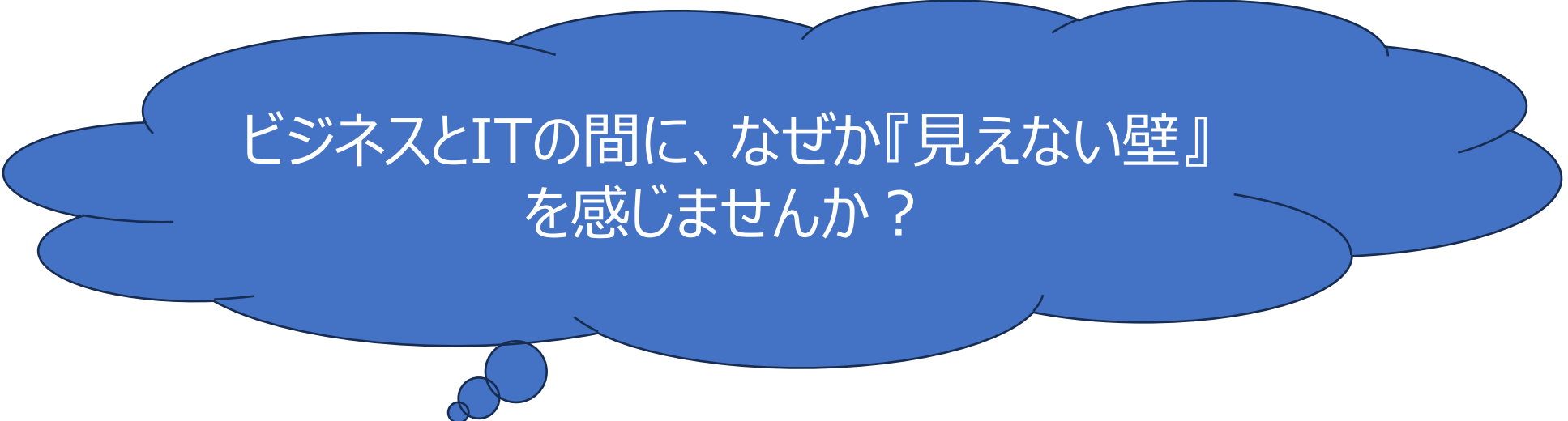
- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

Agenda

- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

「なんとなく」が、ビジネス、そしてITを停滞させていませんか？

- 例えば、こんな経験はありませんか？
 - ✓ システムごとにデータがバラバラなため、必要な情報がすぐに見つからない
 - ✓ 要件定義がビジネス戦略と直結していない
 - ✓ DX推進が一部の部署で停滞している



ビジネスとITの間に、なぜか『見えない壁』
を感じませんか？

少し概念の整理をしましょう！

概念	概要	備考	状態
要望	やりたいことの元ネタである意見、考え等を指す	思いつきのレベルであることが多い	要望同士は相反したり矛盾しているものが混在している状態
要求	やりたいこと、目指すべきことを指す	「目指すべき姿」 (Tobe)	要求同士の整合性が取れている状態
要件	実現すべきことを指す	「実現すべき姿」 (CanBe)	当然、要求同様整合性の確保は必須

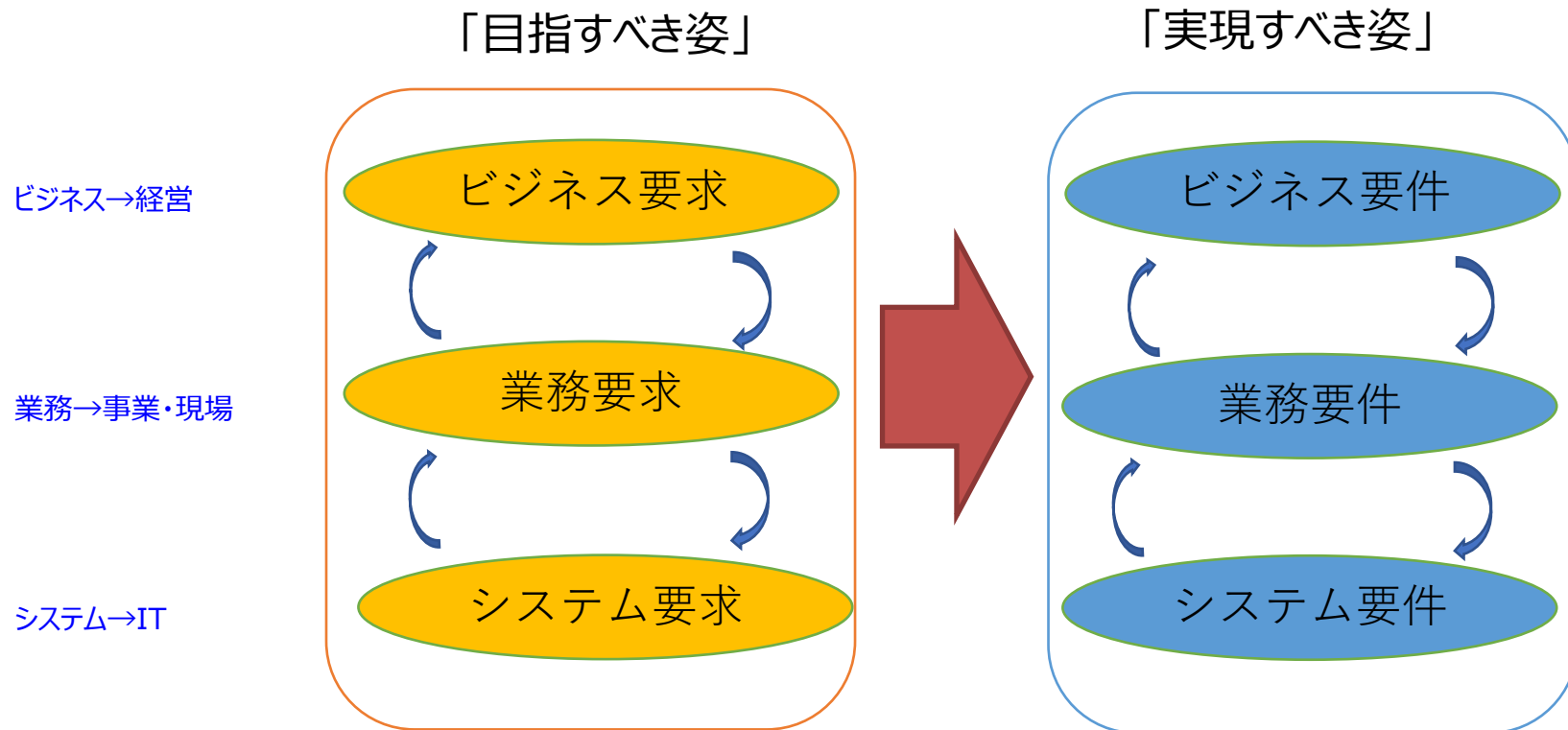
- 要望を要件と勘違いしてませんか？
- 要求・要件は与えられるものではなく、定義する、創り上げるものです

「要件定義のセオリー」より

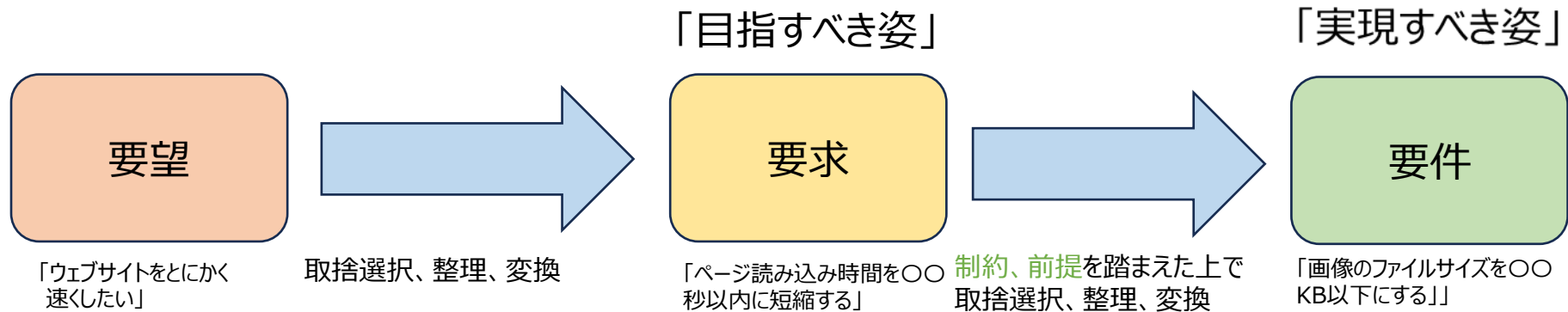


整合性とは？

- 「目指すべき姿」= 要求、「実現すべき姿」= 要件は
ビジネス（経営）⇒業務（現場、事業）⇒システム（IT）
の間において整合性が取れており、かつ一貫性がなければ
価値を生み出すことはできません。



要望、要求から要件への変換



- ✓ **制約**とは、枠を設けて、自分の思うままに活動をしたり、物事を成り立たせたりできないようにすることを指します
「動かせない、変更できないもの」
- ✓ **前提**とは、何かを成り立たせるために必要な事柄を指します
「動かす余地があるもの」

「動かせない」制約とは

● 制約（Constraint）

動かせないもの、変更できないもの

- ✓ 何かを行う際に、守らなければならないルールや条件のことです。
- ✓ 例：
 - **法律・規制**：個人情報保護法に従い、顧客データの取り扱い方法を厳守する
これはビジネスの意思で変更できません。
 - **予算**：プロジェクトの予算が「1,000万円以内」と決まっている。この金額を超えてはいけません。
 - **既存システムの仕様**：移行先のシステムが、特定のデータ形式しか受け付けない。
このデータ形式は、現時点では変更不可能です。

「動かす余地がある」前提とは

● 前提 (Assumption)

：動かす余地があるもの、成り立たせるために必要なこと

- ✓ 何かを始めるにあたって「～であるはずだ」と仮定する事柄のことです。
もしこの前提が崩れると、計画全体に影響が出る可能性があります。
- ✓ 例：
 - **人員**：「プロジェクトにアサインされるメンバーは、全員がPythonの経験者である」と仮定する。もし経験者が揃わない場合は、教育期間を設けたり、外部の協力を仰いだりする必要があります。
 - **スケジュール**：「顧客からのフィードバックは、毎週金曜日までに届く」と仮定して、プロジェクトのスケジュールを組む。フィードバックが遅れる場合は、スケジュールを見直す余地があります。
 - **技術**：「顧客情報管理システムは、クラウドサービスを導入する」と仮定する。しかし、セキュリティ要件が厳しく、オンプレミスでの構築に切り替えることも考えられます。

Agenda

- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

我々の「本当に欲しい」を引き出す！

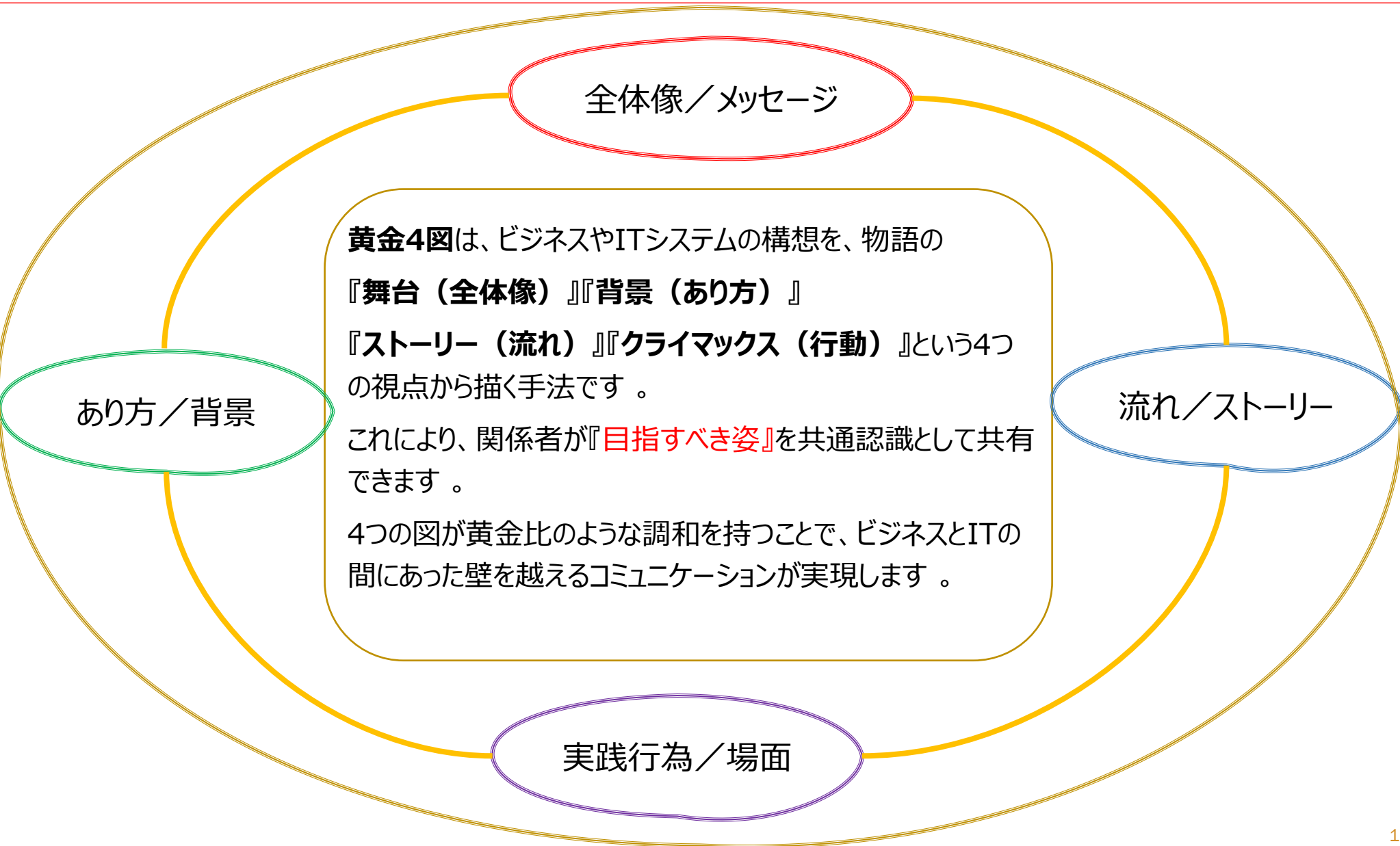
革新的な実践方法論『黄金4図（GFDG4D）』

- 多忙を極める現代のビジネス環境において、「何がしたいのか不明確なまま、これからどう進めて良いかわからない」という課題に直面していませんか？
 - 残念ながら、この根本的な問いに明確な答えを持つ企業、組織、団体は決して多くありません
- ビジネスやITのプログラム／プロジェクトの成功は、
「何を目指すべきか」という“要求”
をどれだけ明確にできるかにかかっています
 - しかし、要求は単に与えられるものではなく、主体的に
「創り上げる」意識が不可欠です

我々の「本当に欲しい」を引き出す！
革新的な実践方法論『黄金4図（GFDG4D）』

- 課題を解決するカギは「**図式と対話**」です！
 - わかる、伝わる、ワクワクしながらビジネスとITの共通言語を生み出す必要があります。
- 黄金4図は、「**目指すべき姿＝要求を、ビジネスとITの共通言語で描く方法論**」であり、構想をカタチにする実践メソッドです！

『黄金4図（GFDG4D）』 – ビジネスとITの『共通言語』



皆で未来の物語を描くために

- 目指すべき姿とは、**皆で共有するまだ見ぬ未来の物語**です
- 関わる人達がお互いの相手の心の中に上手に踏み込んで
黄金4図（GFDG4D）を描いていくことにより目指すべき姿
を
創り上げましょう！



(The **G**olden Four (**4**) **D**iagrams)

『八百万の神が宿る国』の実践メソッド

- **黄金4図を描くという実践メソッドは、
『八百万の神が宿る国の民族にとって最適なやり方
であること』を目指しています。**

- ✓ 厳密すぎる欧米のカタカナ用語に惑わされることなく、和を以て創り上げる精神を大切にします。
- ✓ 神が森羅万象あらゆるところに宿るように、ビジネスの全体像を一つの視点ではなく、複数の視点から捉えます。
- ✓ 『ゆるキャラ』や『オタク文化』に代表される日本の親しみやすい文化の良さを活かし、皆が参加できるワイガヤな雰囲気を生み出します。

Agenda

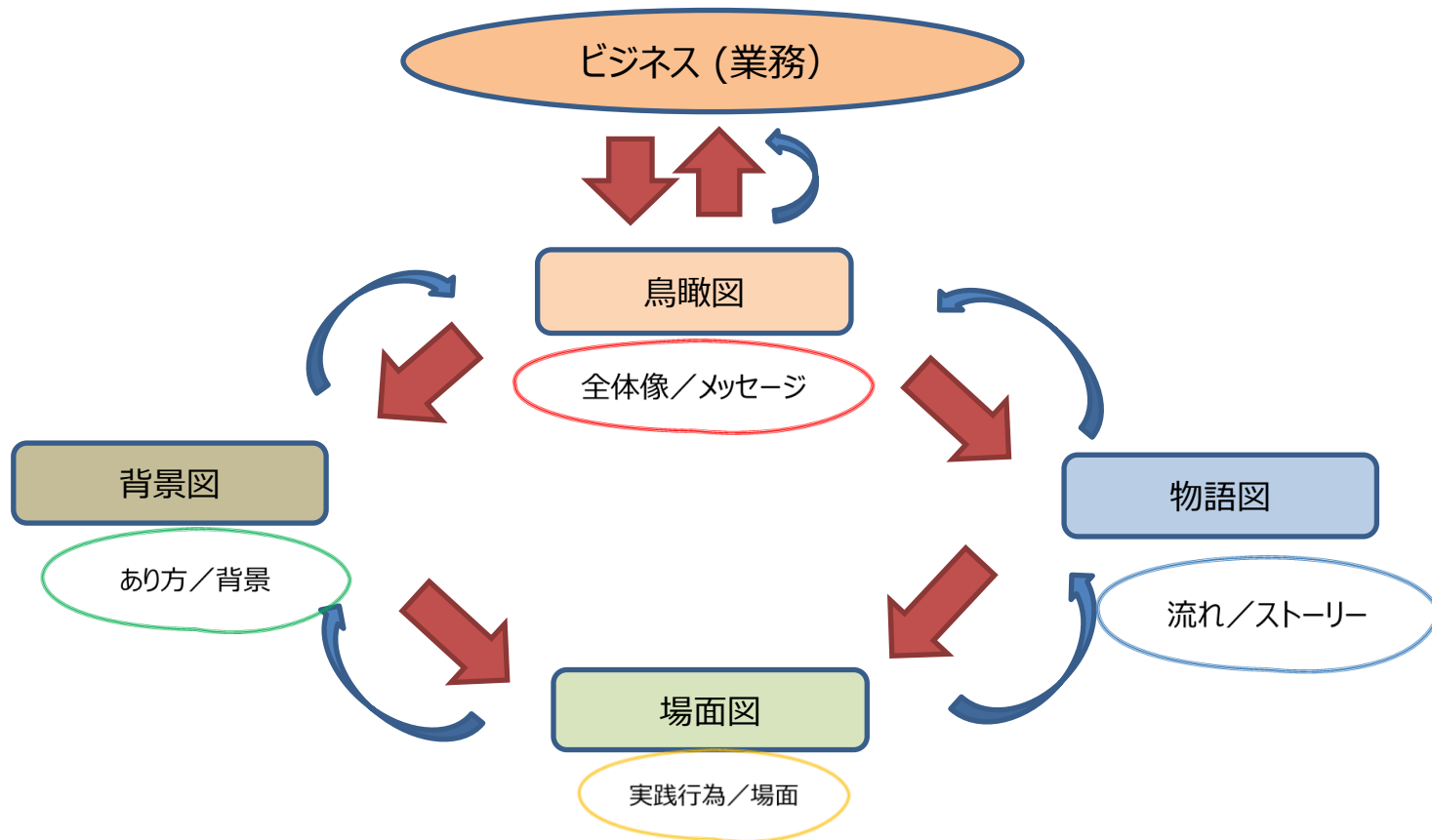
- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

『黄金4図（GFDG4D）』の4図とは

- ①鳥瞰図（Overview）－『物語の舞台』を描く
物語の全体イメージ、ビジネス/業務の全体像を表します。
私たちが目指す理想のビジネスという物語のゴールと登場人物（システム、顧客など）を配置します。
- ②背景図（Essence／background）－『物語の背景』を深掘りする
物語の背景、ビジネス/業務の静的側面（データやリソースなど）を表し、物語の骨格を固めます。
- ③物語図（Flow／story）－『物語のストーリー』を紡ぐ
物語のストーリー、ビジネス/業務の動的側面（業務プロセスやデータの流れ）を表します。
- ④場面図（Interrelation）－『物語のクライマックス』を詳細に描く
物語の場面、背景と物語（ストーリー）（誰がどのデータにどんなアクションを起こすか）を表します。

黄金4図の関係性

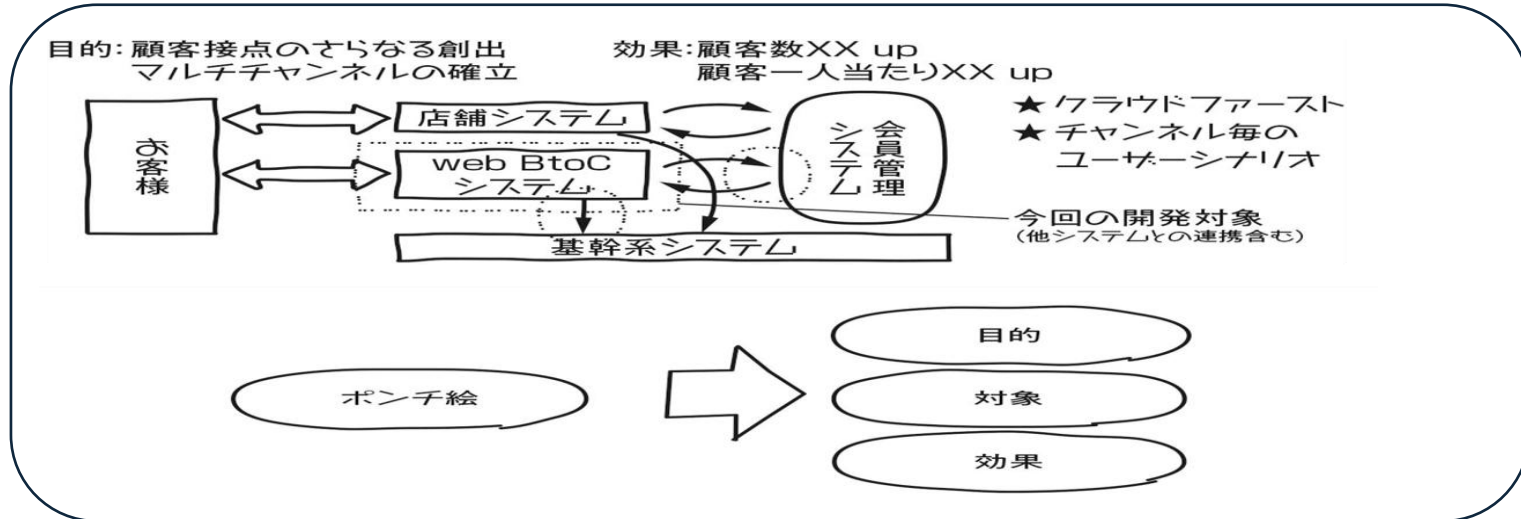
- 黄金4図は、まるで『物語の羅針盤』のように、それぞれの図が黄金比のバランスを保ちながら、ビジネスとITのギャップを埋め、皆が納得する『目指すべき姿』という物語を創り上げていきます。



黄金4図具体例その1

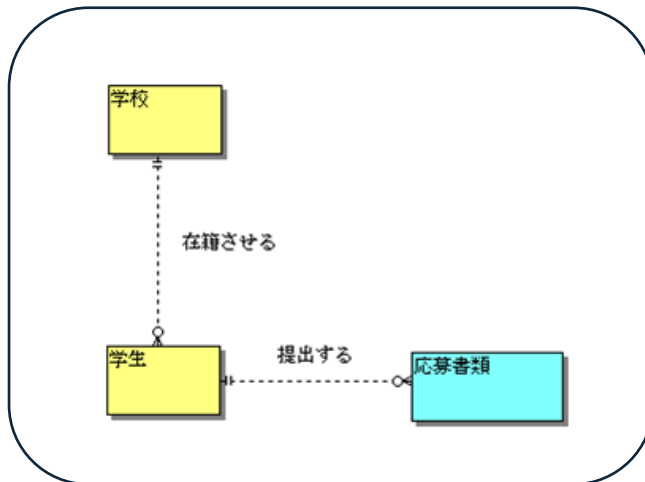
➤①鳥瞰図『物語の舞台』

鳥瞰図（手書き風ポンチ絵）

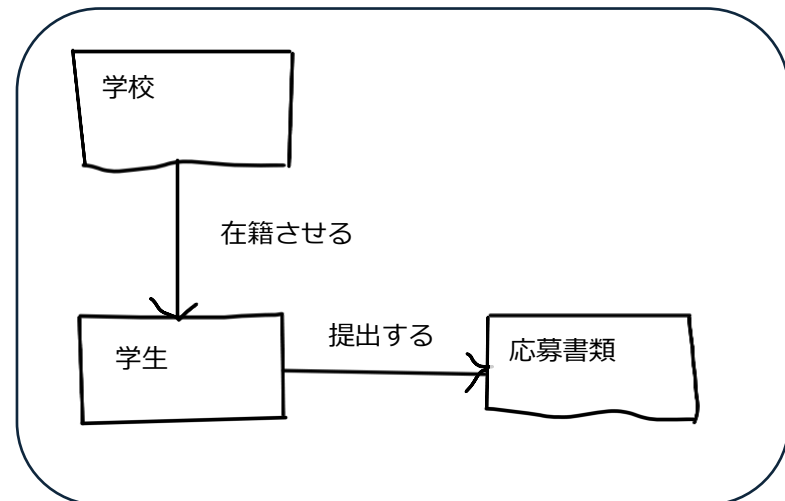


➤②背景図『物語の背景』

背景図（概念データモデル）



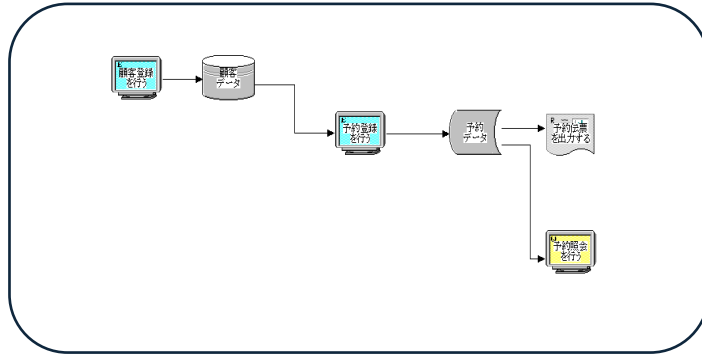
背景（手書きデータモデル風）



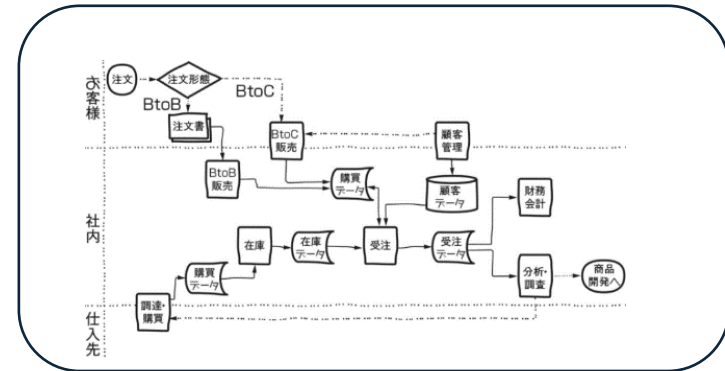
黄金4図具体例その2

③物語図『物語のストーリー』

物語図（業務フロー）

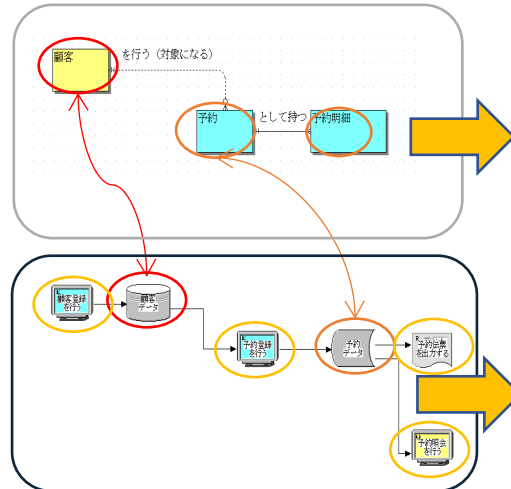


物語図（手書き風業務フロー）



④場面図『物語のクライマックス』

背景図（概念データモデル）



場面図（CRUDマトリクス）

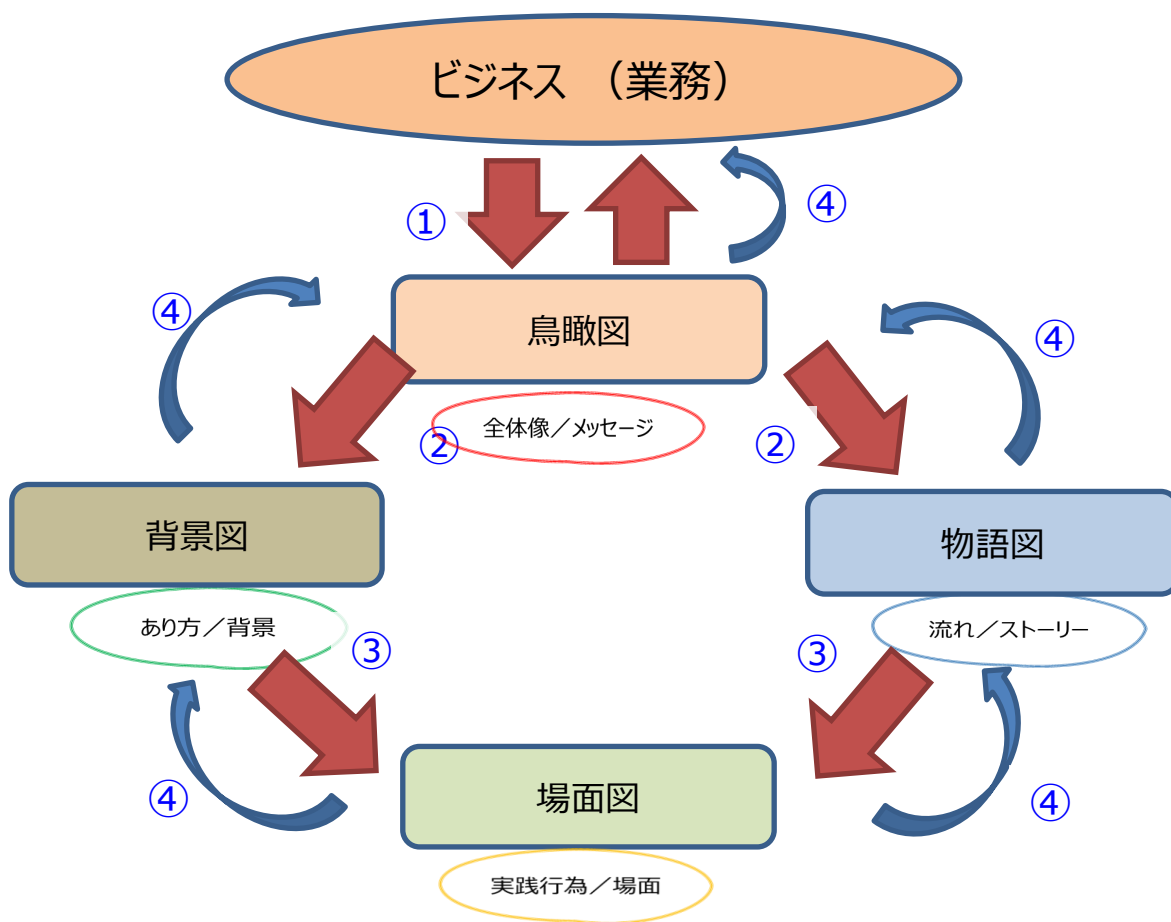
	エンティティ		
	顧客	予約	予約明細
顧客登録を行う	C	R	
予約登録を行う		R	C R C R
予約照会を行う		U D U D	
予約伝票を出力する		R	R R

場面図（CRUDマトリクスもどき）

	エンティティ		
	顧客	予約	予約明細
顧客登録を行う	●		
予約登録を行う	●	●	●
予約照会を行う		●	●
予約伝票を出力する		●	●

物語図（業務フロー図）

黄金4図の作成手順：「未来の物語」を紡ぐための具体的な手順



①『物語の全体像を描こう』

まずは、ビジネスの全体像、つまり物語の舞台となる鳥瞰図を作成します。この時点で、ビジネスのあり方もより有効な形に修正したり、業務レベルにブレイクダウンしたりします。

②『舞台の背景とストーリーを考えよう』

鳥瞰図をもとに、登場する「モノ」の関係（背景図）と、「動き」（物語図）に分けて、詳細を描き込みます。

③『クライマックスの場面を決めよう』

背景図と物語図の関係から、実践すべき行為を明らかにして場面図を作成します。

④『何度も練り直して物語を完成させよう』

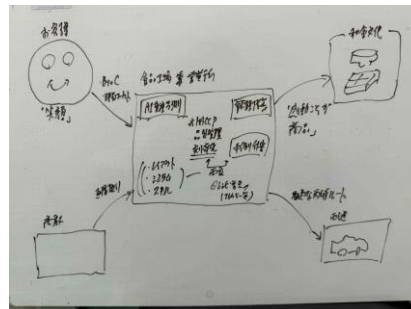
完成した4つの図を何度も見直し、ビジネス自体も含めて調整を加え、より良い物語に仕上げていきます。

鳥瞰図：物語の舞台を、自由に描こう

・ 目指すべき『物語の舞台』をイメージする

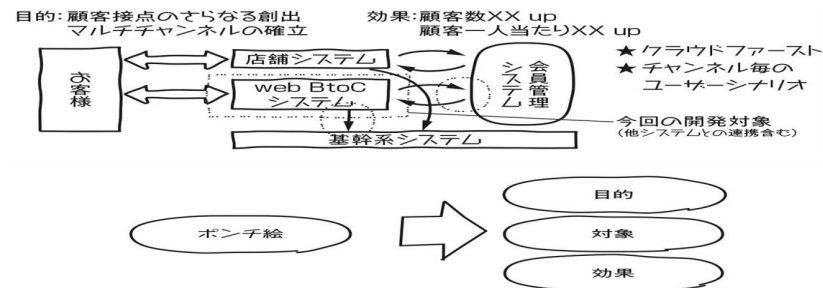
- ✓ 目指すべきビジネスの全体像をイメージ化することに努めます。
- ✓ ビジネスの規模が大きい場合には業務レベルにブレイクダウンして描いていきます。
- ✓ ジャストアイデアをどんどん取り込んでいきましょう！
- ✓ 物語の始まりに、完璧な絵は必要ありません。最初は『こんな物語にしたい』という想いを、ポンチ絵で自由に描き始めましょう！
- ✓ 他の3図描いていくうちに整合性が担保されて要求を表現した図になっていきます。
- ✓ この物語の『ゴール』はどこか？ ビジョンやビジネス価値（収益構造）を明確にすることで、物語のゴールをはっきりさせましょう。

食品工場兼営業所設立に向けた鳥瞰図（殴り書きレベル）



鳥瞰図：物語の舞台は、何度でも描き直せる

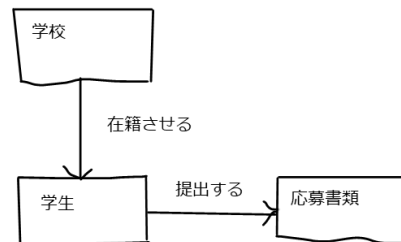
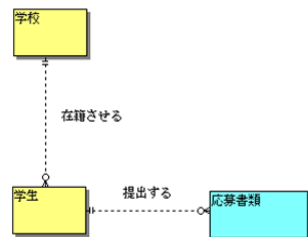
- ✓ 不格好でも構いません。
- ✓ とにかく、いくつか描いてみることです。
- ✓ 他の図と描き進めるうちに、『舞台』は洗練されていきます。
4つの図を行き来しながら、少しずつ形を固めていきましょう。
- ✓ 物語は一つにまとまらなくても大丈夫。無理に一枚の絵に収める必要はありません。
複数の物語の舞台として描くことも可能です。
- ✓ まずは○、□、⇒の組み合わせで図を描いてみることです。
- ✓ 分かりやすさを意識することで、次のステップが見えてきます。『背景（あり方）』や『ストーリー（流れ）』が自然に浮かび上がってくるはずです。



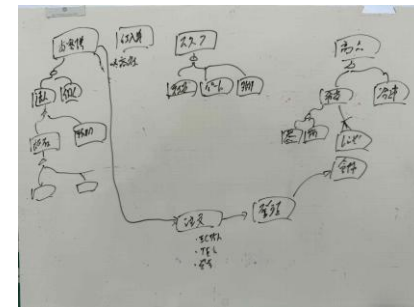
背景図：物語の『背景』を、足元から固める

●物語の『登場人物』と『モノ』を明確に

- ✓ 鳥瞰図に描かれた登場人物（エンティティ）と、彼らが扱う『モノ』（リレーションシップ）の関係性を描いて、物語の骨格を固めます。
- ✓ 『誰が、何を、どうするのか』。このシンプルなルールで関係性を表現します。
- ✓ 例えば、『学校は学生を在籍させる』のように。
 - ✓ エンティティの名称、リレーションシップの定義はきちんと日本語で表記します
 - ✓ 繰り返し行うことでモデル（もどき）ができて上がります
 - ✓ 専門的な抽象化は後回しです。誰もがすぐに理解できる表現を心がけましょう。



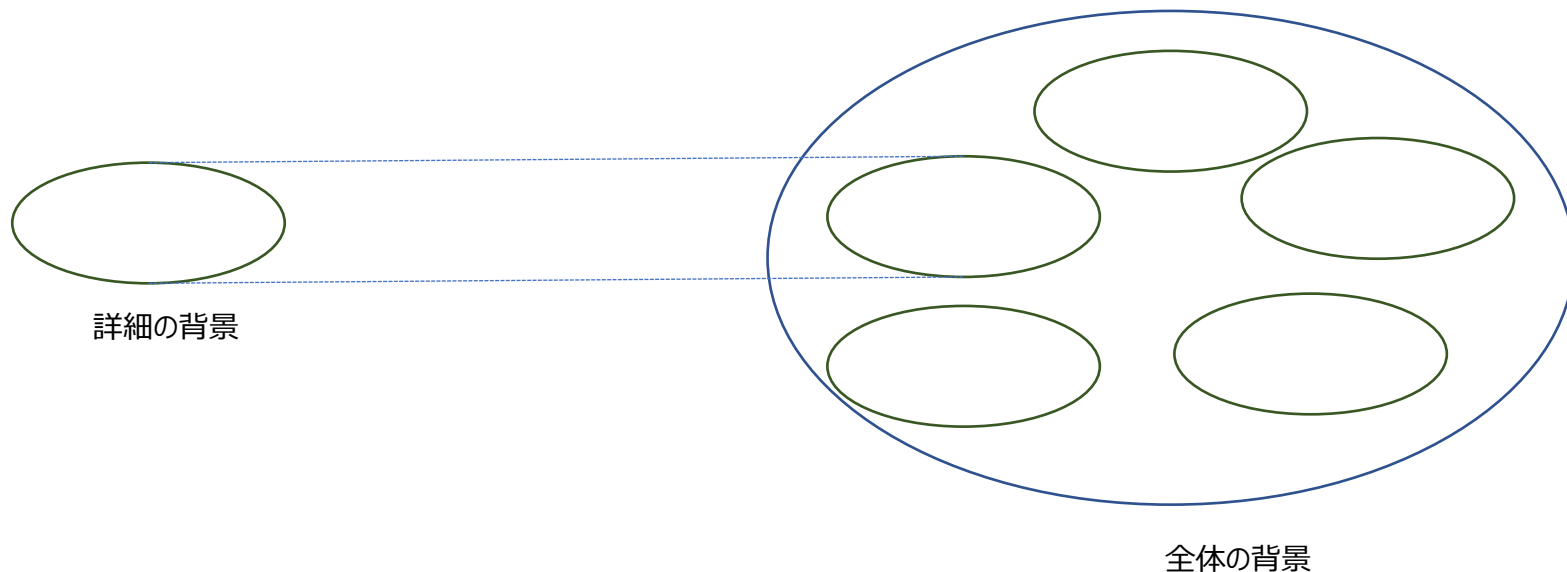
食品工場兼営業所設立に向けた背景図（殴り書きレベル）



背景図：『遠い世界の背景』よりも、まず『身近な背景』

● 詳細な視点で物語の土台を築く

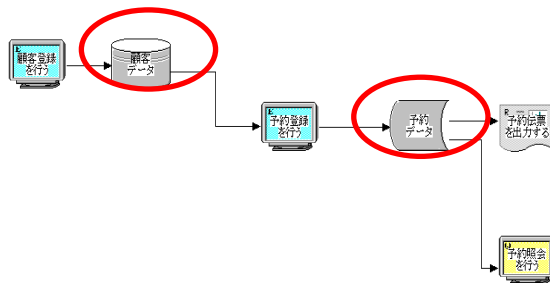
- ✓ 物語の背景は、詳細から描き始めた方がやりやすいです。
- ✓ 全体像を把握することも大事ですが、まずは自分たちがよく知る『足元の背景』から描き始めましょう。
- ✓ 立場によって見える背景は異なります。
- ✓ 多様な視点を 取り入れることで、物語の背景に奥行きが生まれます。



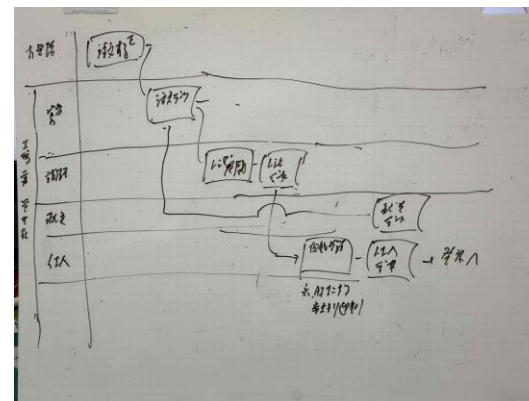
物語図：物語の『ストーリー』を、アイコンで紡ぐ

・ 時間軸に沿って『動き』を描く

- ✓ 横書きなら左から右へ、縦書きなら上から下へ、物語のストーリーを時系列で描いていきます。
- ✓ アイコンは『動き』を伝える魔法の言葉。
分かりやすいアイコンで『動き』を表現し、線を繋いでストーリーを紡ぎます。
- ✓ 個々のプロセスは「～する」「～を行う」という動詞句で表現します。
- ✓ プロセスが操作するデータを記述し、プロセスオーナーとデータへの責任を結び付けておきます。



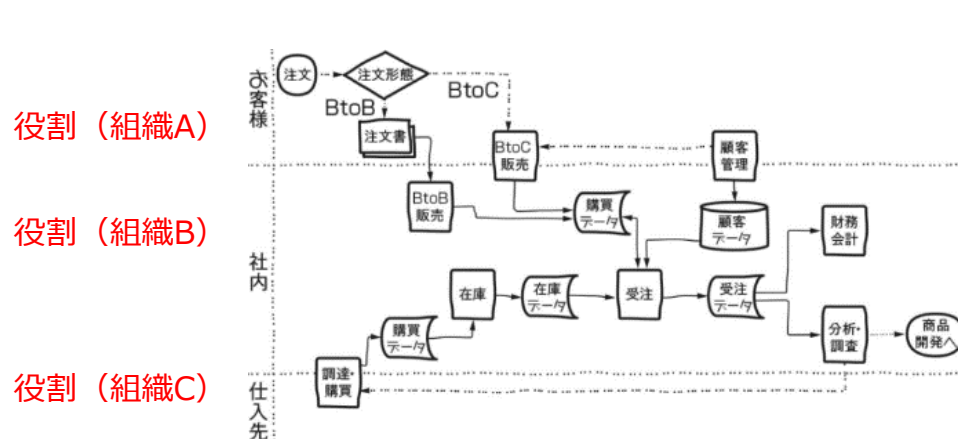
食品工場兼営業所設立に向けた物語図（殴り書きレベル）



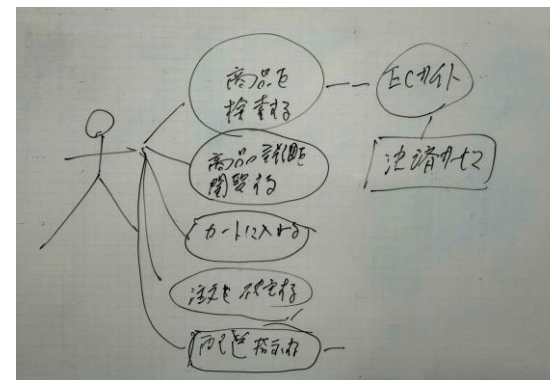
物語図：『ストーリー』にリアリティを

- 物語の『背景』を5W2Hで補足する。

- ✓ 個々のプロセスに対して5W2Hで定義を記述することで、物語のリアリティを高めます。
「When（いつ）」「Where（どこで）」「Who（だれが）」「What（なにを）」
「Why（なぜ）」「How（どのように）」「How Many（どれ位）」
- ✓ ビジネス、業務規模が大きい場合は階層化します
- ✓ 役割(組織)を明確にしてスイムレーンで分けます
- ✓ もう少し詳細なシナリオ表記、もしくは業務フローとシナリオの併用もOKです！
(わかりやすければ)



食品工場兼営業所設立に向けた物語図（殴り書きレベル）

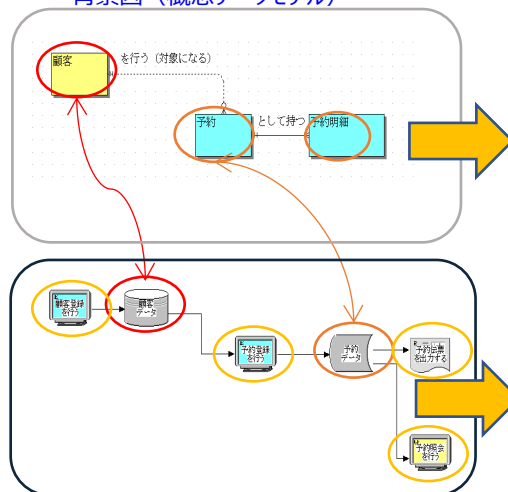


場面図：クライマックスの『下書き』から始めよう

『物語』の繋がりが分かれば十分。

- ✓ 簡単なマトリクス形式で描いてみます。場面が表現できればどのような形式でも構いません。
- ✓ まずは「何らかのデータ操作がありそうだな」と思う箇所に印（●）を付けていきましょう。
- ✓ この段階では、データとプロセスの関係性の有無が分かれば十分です。
- ✓ ●の部分はどんな風なのか、メモでもいいので書いておきましょう。

背景図（概念データモデル）



物語図（業務フロー図）

場面図（簡易マトリクス）

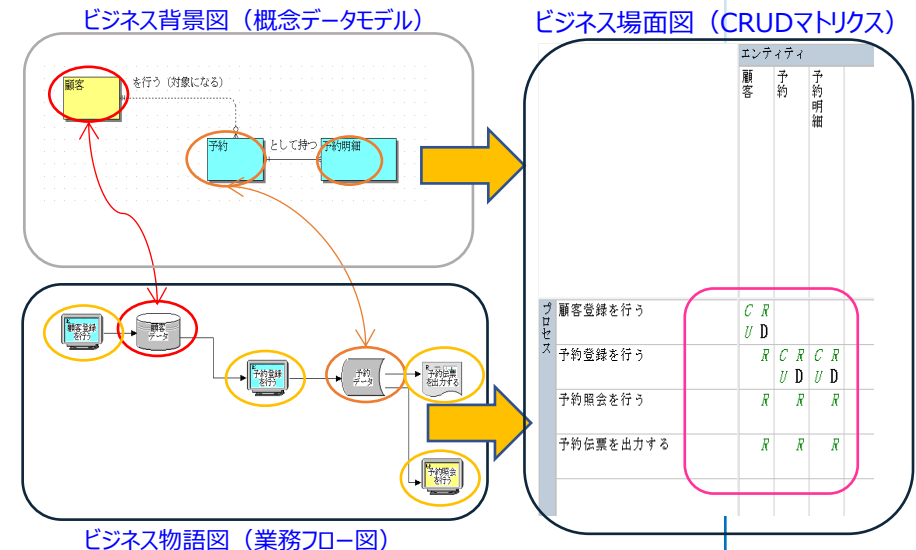
	エンティティ		
	顧客	予約	予約明細
プロセス	顧客登録を行う	●	
	予約登録を行う	●	●
	予約照会を行う	●	●
	予約伝票を出力する	●	●
		●	●

食品工場兼営業所設立に向けた場面図（殴り書きレベル）

場面図：物語の『クライマックス』を詳細に描く

・場面図としての「CRUDマトリクス」

- ✓ 『登場人物』と『アクション』の接点を描きます。物語の背景（背景図）とストーリー（物語図）が交わる重要な場面、つまり『誰が、何に、どんなアクションを起こすか』を詳細に描きます。
- ✓ 物語図に記述された「XXXデータ」のアイコンとプロセスを参考に描いていきます
- ✓ C・R・U・Dは、物語の『行為』を表す記号。
データとプロセスの交点に、物語の重要な行為（Create, Read, Update, Delete）を記します。
- ✓ なんらかの操作、行為が明らかになっていれば内容をメモしておきます。



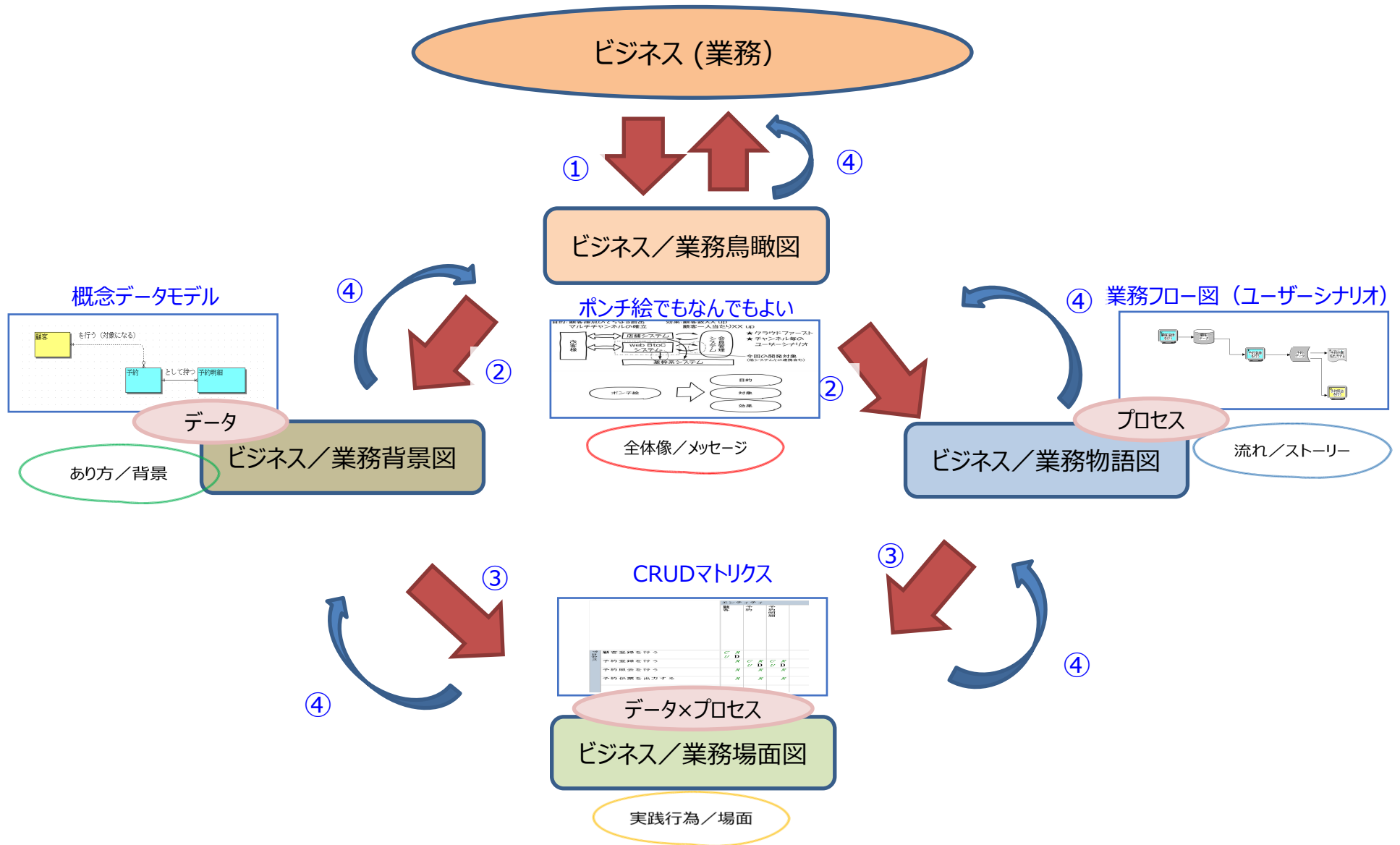
全体：用語集を作ろう！

● 用語の整理を始めよう！

- ✓ 図を描く過程で出てきた用語は全て意味を明確にしておきましょう。
- ✓ 言葉の意味違いが後々大きな問題を引き起こすことが多いため、非常に重要です。
- ✓ いずれデータ辞書やデータカタログとして育てていければ、ビジネス、ITにとってとても大きな価値を生みます。



『未来の物語』を紡ぐための具体的な手順



Agenda

- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

物語を創るための4つの力

- 「ビジネスとITの意思疎通」
- 「圧倒的なわかりやすさ」
- 「単眼視から複眼視へ」
- 「ワイガヤ文化とアナログの力」

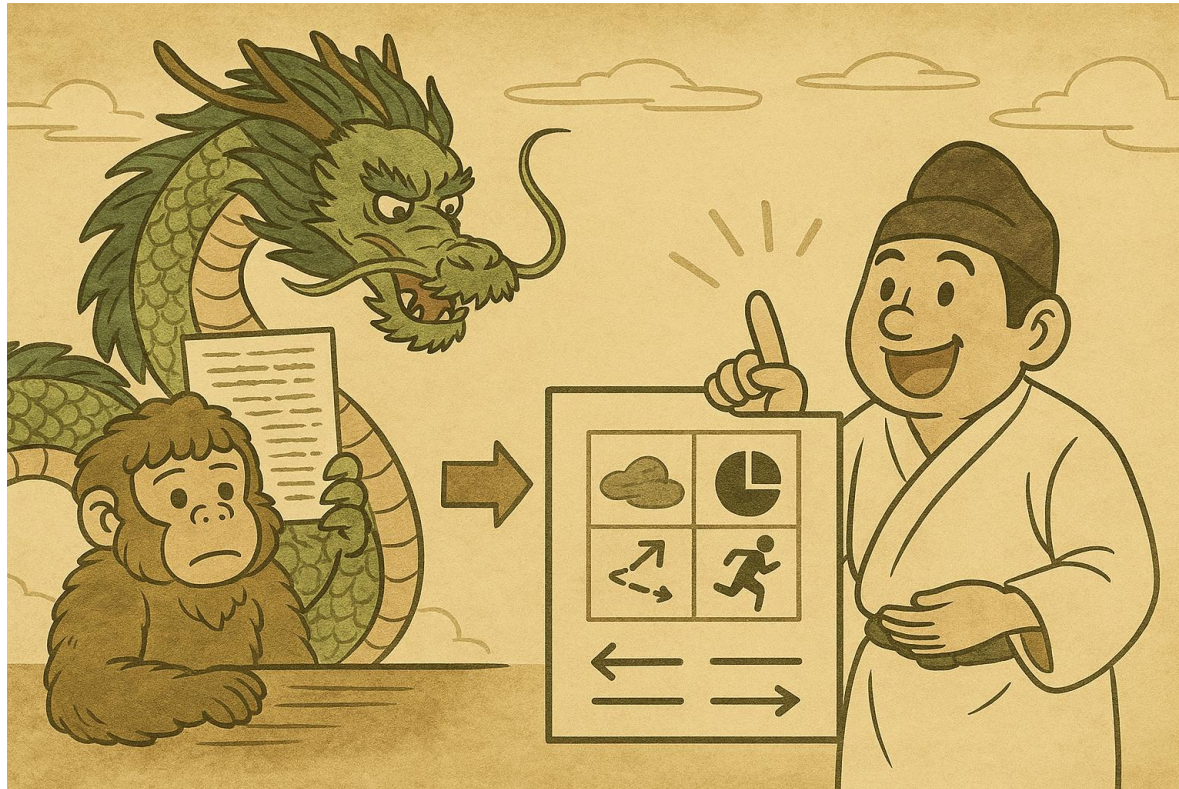
『ビジネスとITの真の架け橋』- 黄金4図がもたらす価値その1

- **ビジネスとITの真の架け橋**：従来のIT部門中心の表現から脱却し、ビジネス部門とIT部門が共に主役となり、共通言語（図解）で対話を活性化します。



『圧倒的な分かりやすさ』- 黄金4図がもたらす価値その2

- **圧倒的な分かりやすさ**：テキスト中心、小難しい表現中心の分かりにくいドキュメントから、直感的で理解しやすい図解中心の表現へと転換。複雑な情報も一目で把握できます。



『単眼視から複眼視へ』- 黄金4図がもたらす価値その3

- **単眼視から複眼視へ**：一人の視点だけでは平面的な理解にとどまりがちですが、複数の視点を組み合わせることで対象を立体的に捉えることができ、より確かな共通認識が得られます。



『ワイガヤ文化の促進』- 黄金4図がもたらす価値その4

- 「ワイガヤ」を促進する参加型アプローチ：数枚のホワイトボードを囲み、老若男女、役職問わず多様な関係者が参加する「ワイガヤ」を通じて、活発な議論と早期の気づきを促します。



AI時代の今こそアナログの力を最大限に活かそう！

➤ 数枚のホワイトボードを前に皆でワイガヤ
しよう！



手書きの筆圧を大事しよう！

- デジタルツールでは伝わらない『熱意』が、手書きの線には宿ります。
- 消したり、書き直したりする課程も、実は大切な思考の軌跡です。



指先から脳に直接インスピレーションが伝わる感覚を大切にしよう！

➤そしてアハ体験をしよう！



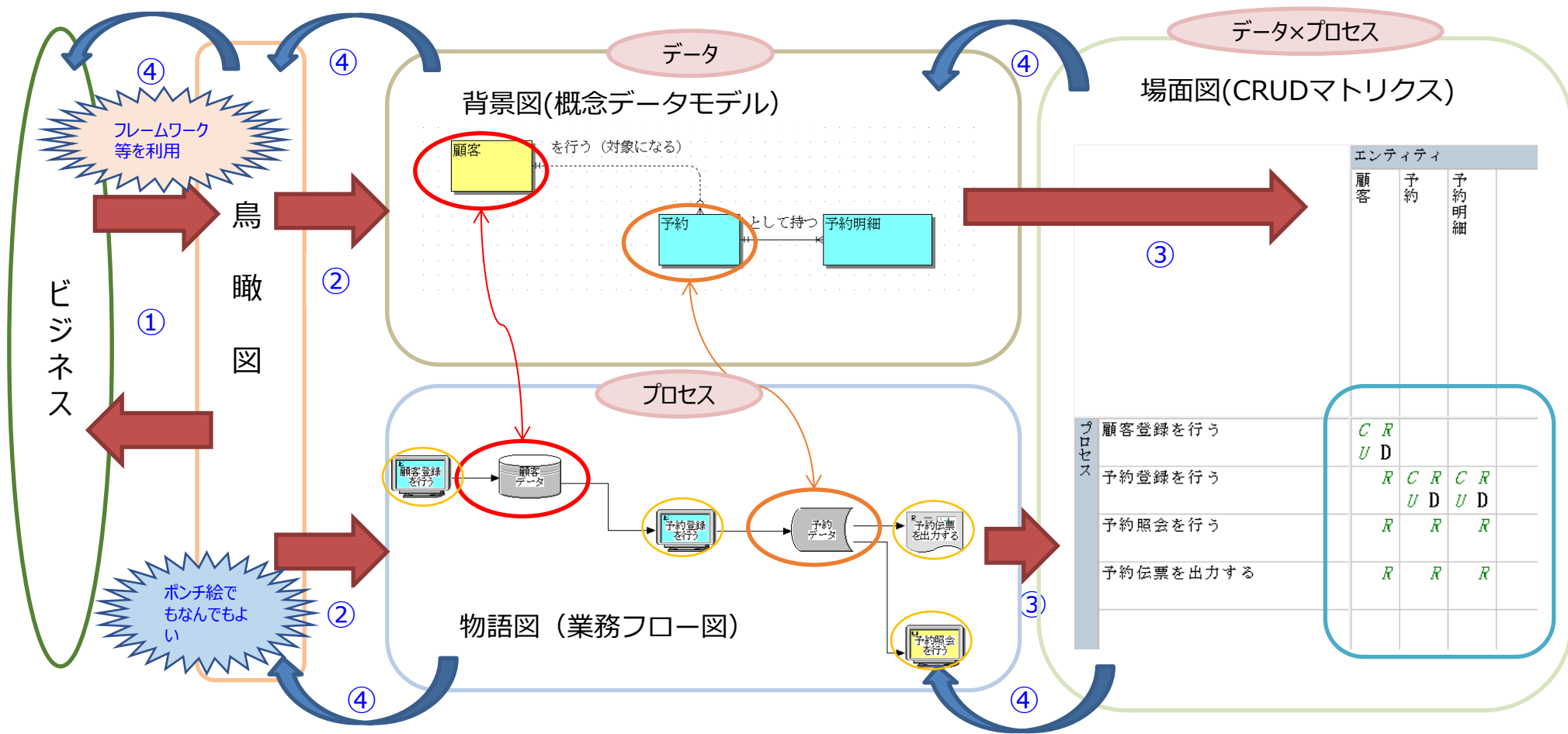
さあ、皆で『物語』をワイガヤしよう！

- 私たちは、物語を何度も『描いては消して』を繰り返し、返して完成させます。
 - 一度完成した物語も、フィードバックをもとに改善し、より良いものへと進化させていきます。
- ▶ 職位や年齢に関わらず、誰もが物語の作者として参加できる雰囲気を作り出します。
 - ※注意：物語の創造には前向きなエネルギーが必要です。ネガティブな発言は、物語を中断させてしまうことがあります。

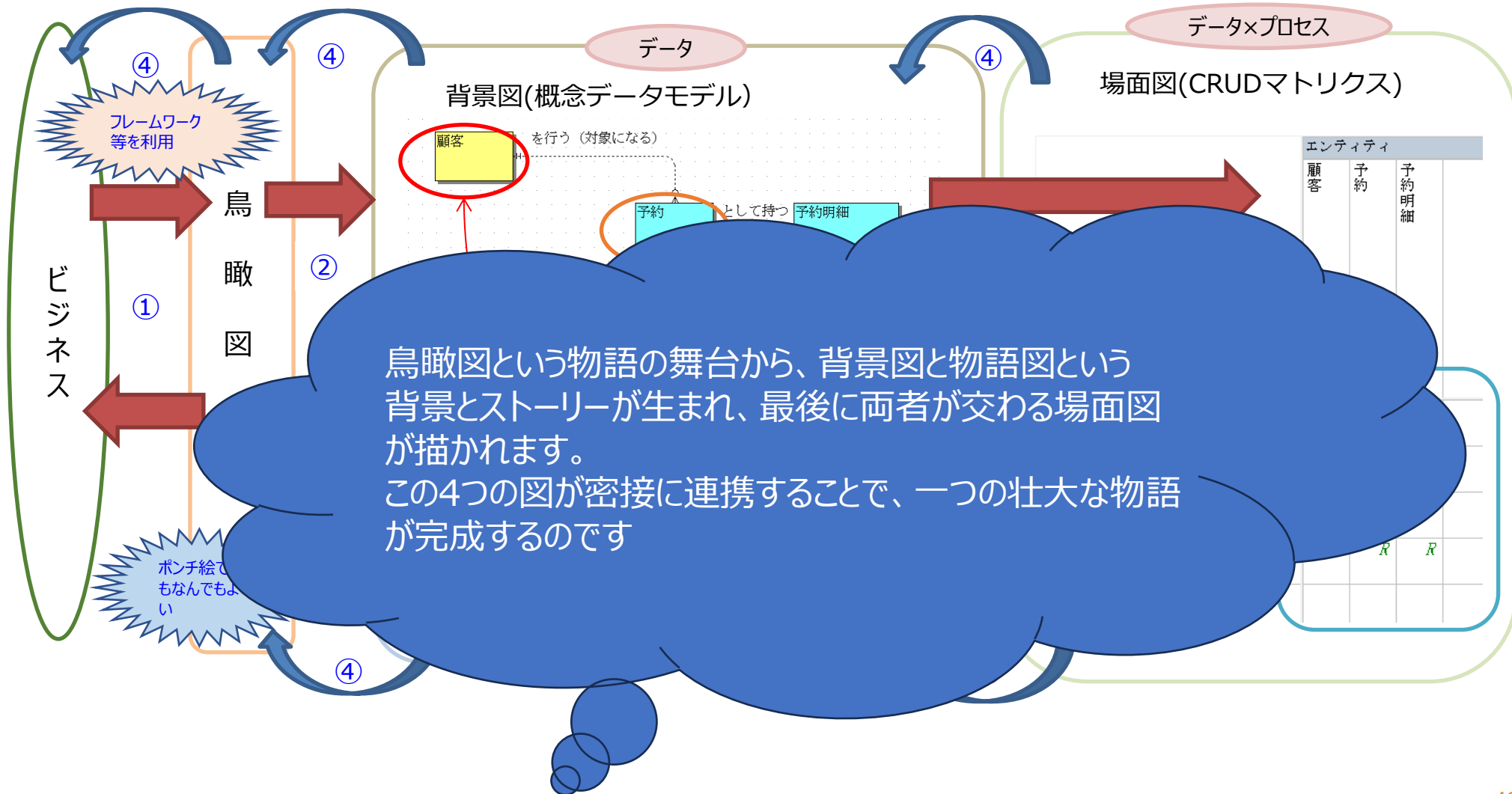
それぞれが複数の表現方法を持っている！

- 4図は 4 つの視点さえ押さえられれば
どんな描き方でも構いません。
- 4図はそれぞれ複数の表現方法を持って
おり、その組み合わせにより意味を持ちま
す。

黄金4図の具体的な関係性

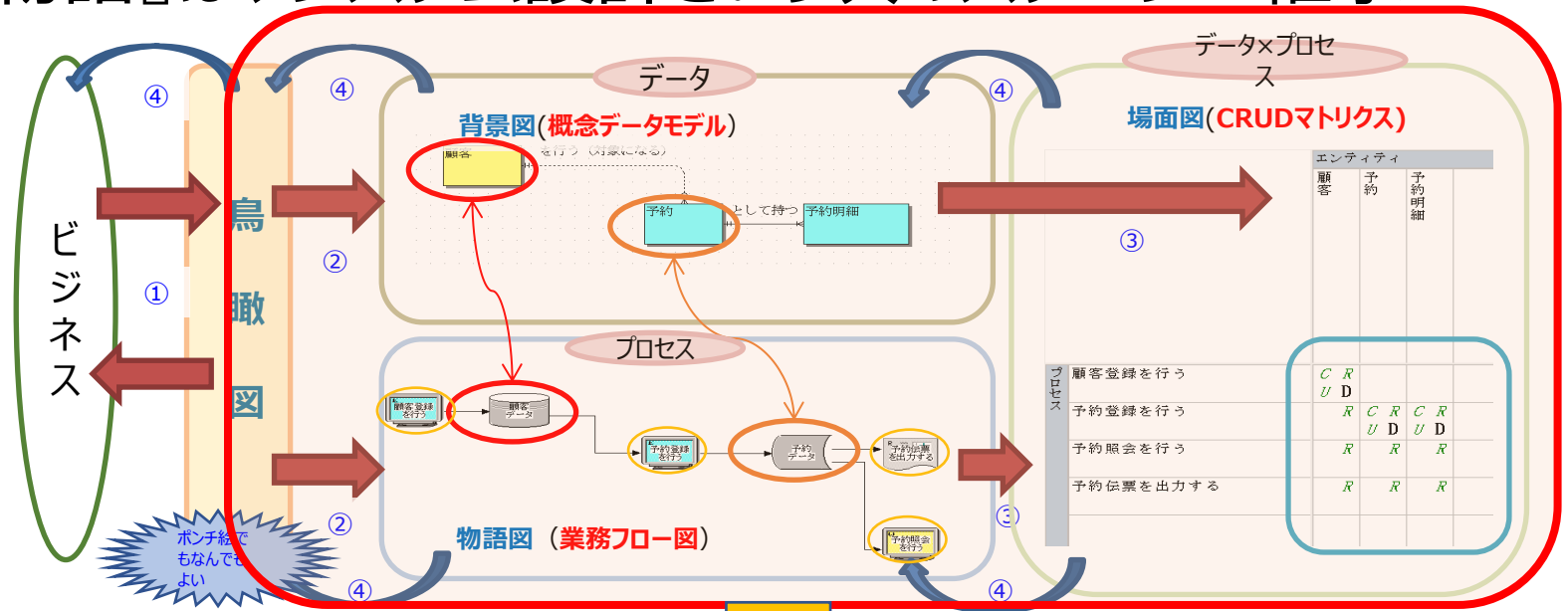


黄金4図の具体的な関係性



『物語』は、次のステージへ

- 描かれた『物語』は、システム設計という次のステージへ継承される！

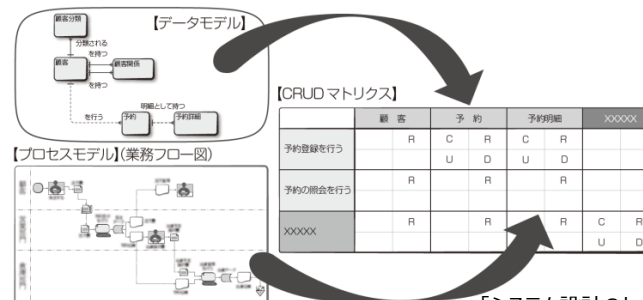


- ✓ 黄金4図は、描いた『物語』を後工程のシステム設計でそのまま有効な『モデル』として活用できます！

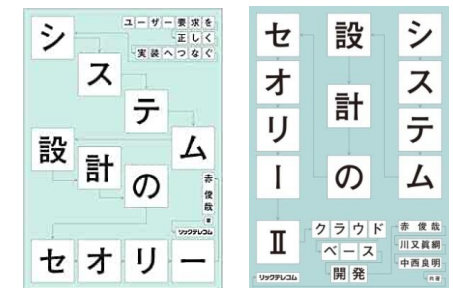


- ✓ これにより、要求・要件・設計というシステム開発のフェーズを、一つの『物語』としてシームレスに繋ぐことができます。

図 5-1 CRUDマトリクスのイメージ



「システム設計のセオリーⅡ クラウドベース開発」より



Agenda

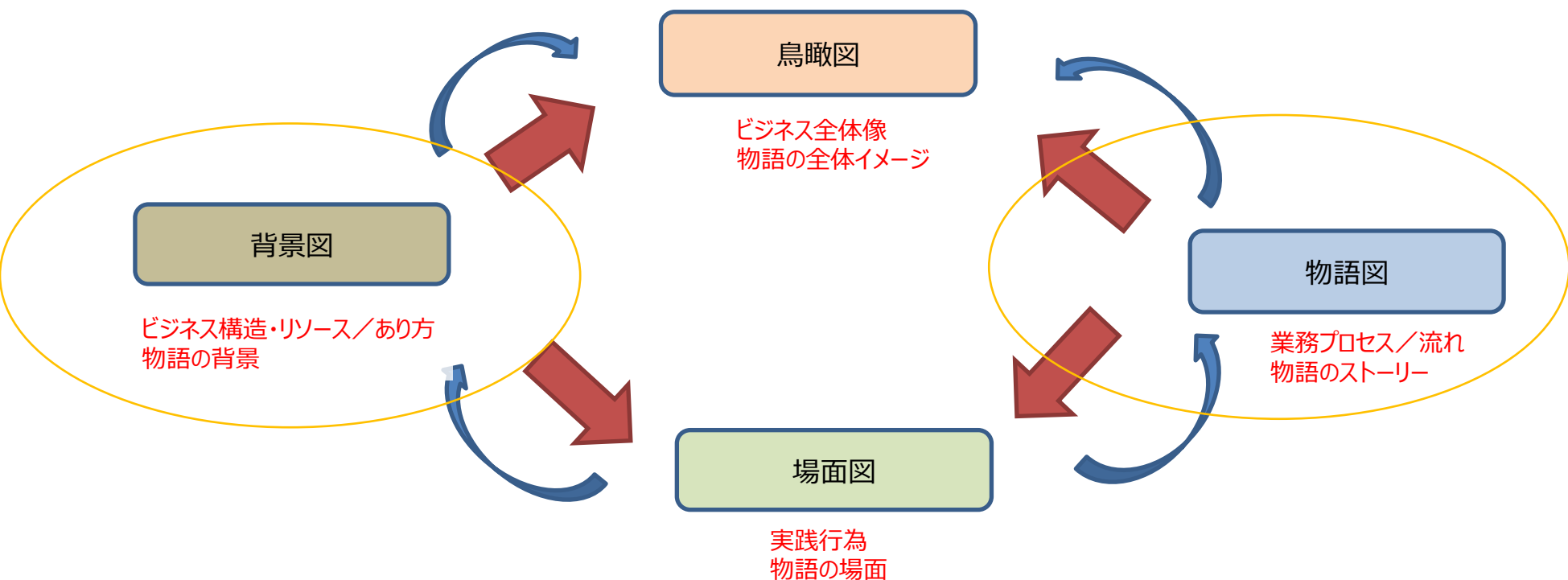
- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

ファシリテーターが留意すべきこと

- 一つの図に固執しないことです。
完成度を過剰に意識する必要はありません。
- どうしても物語図の議論に偏ってしまう傾向があります。
背景図がどうなるべきかをきちんと意識して4図を描いていきます。
- 全員をワイガヤに巻き込むことを意識して、発言を自発的に行いやすい空気を作ります。
- ⇒発言が苦手な人には、アイデアをまず付箋に書いてもらう 等々

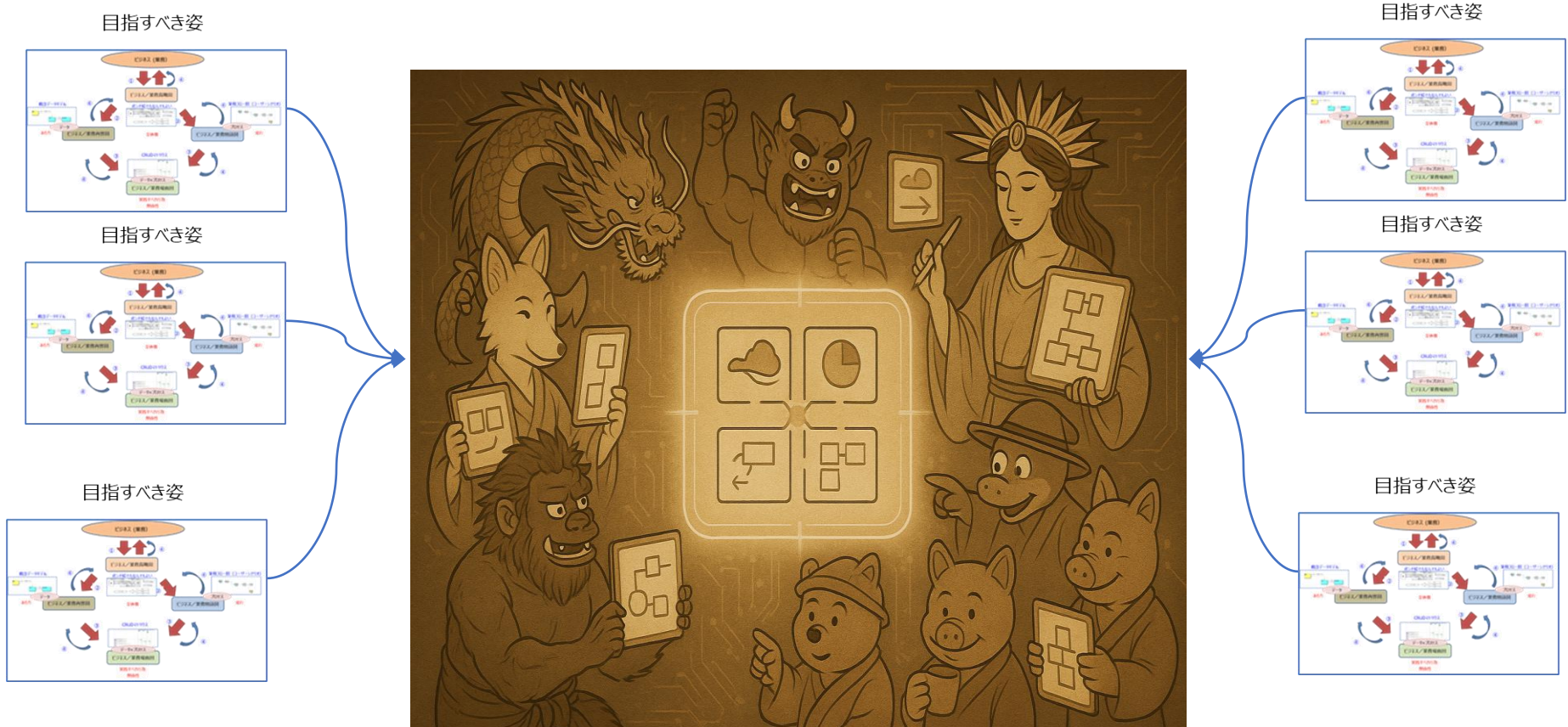
さあ、『今いる場所』から物語を始めよう！

- 今、手元にある背景図でも、業務の流れを示す物語図でも構いません。できるところから、物語を描き始めましょう。
- 完璧なスタートでなくてもいいのです。あなたの『物語の断片』が、未来を創る第一歩になります。



理想の世界観を持ち寄る！

- 理想の世界感を持ちより、それぞれがGFDG4Dを作って理解しあい、統合されたGFDG4Dを作り、世界を創り上げましょう！



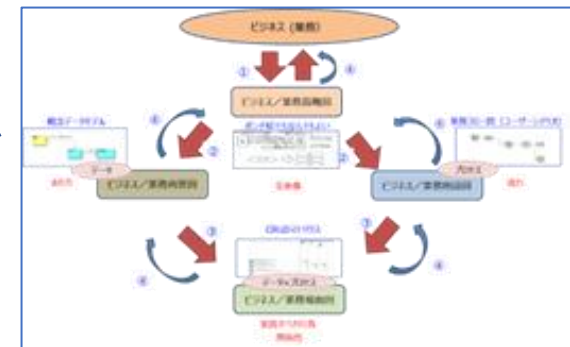
テクノロジーの進化を味方につけて黄金4図を描こう！

- テクノロジーの進化を味方につけて「目指すべき姿」を創り上げましょう！
- ✓ AI,クラウド、SaaSサービス、IoT・・・様々なテクノロジーが凄まじいスピードで進化を続けています
- ✓ 黄金4図はこの進化をどんどん取り入れて描いていきましょう！

テクノロジーの進化



目指すべき姿



Agenda

- イン트로ダクション：物語の始まり
- 第1章：物語の羅針盤 - 黄金4図とは？
- 第2章：物語の描き方 - 実践と具体例
- 第3章：物語の力 - 黄金4図がもたらす価値
- 第4章：物語の進化 - 次のステージへ
- まとめ：物語の始まり、そして未来へ

黄金4図は、すべての『物語』を解決できるか？

- 黄金4図はビジネスとITの意思疎通には非常に役立ちます。
しかし、すべての課題を解決する万能薬ではありません。
- 残念ながら、経営層とビジネス、経営層とITの意思疎通、つまり『物語の最終決定権』までは救えない場合もあります。
- 経営層に『物語の結末』を決定してもらうためには、市場の動向や競合という『物語の外の世界』を別の絵柄で表現する必要があるかもしれません。



描けない原因？

- なぜ、私たちの『未来の物語』は描くのが難しいのでしょうか？

- ✓ 『どうしていいかわからない』
- ✓ - 図を描く習慣がない
- ✓ 『全体像が見えない』
- ✓ - 個々のアイデアは賛成でも、全体としてどうなるかわからない
- ✓ 『他人事になってしまう』
- ✓ - 一部の人が描いた図に、皆が納得できない
- ✓ 『そもそも物語が生まれない』
- ✓ - アイデア自体が枯渇している
- ✓ 『羅針盤の向きが定まらない』
- ✓ - 経営層の意志や方向性が定まっていない



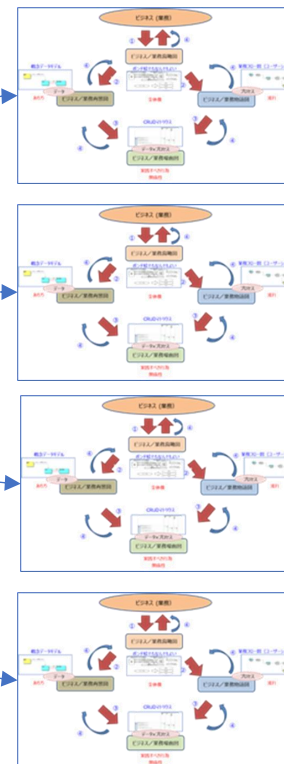
大きな目指すべき姿から小さな目指すべき姿へ

- 目指すべき姿が大きく、多岐にわたるようになることがあります。
その際は分割を検討します。
- 分割の方向性としては「時系列」「セグメント（ドメイン）」「実現性」等を考慮します。

目指すべき姿（全体）



目指すべき姿（個別）

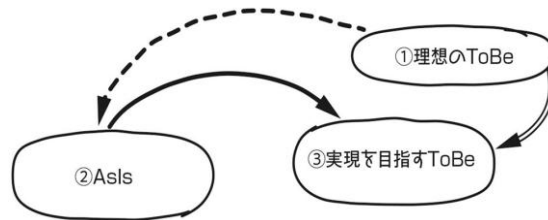
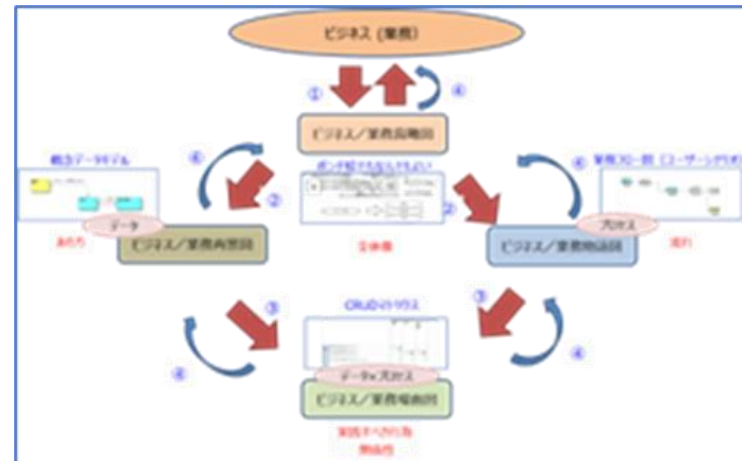


目指すべき姿／実現すべき姿と黄金4図の関係その1

目指すべき姿 = 要求を表す4図



実現すべき姿 = 要件を表す4図



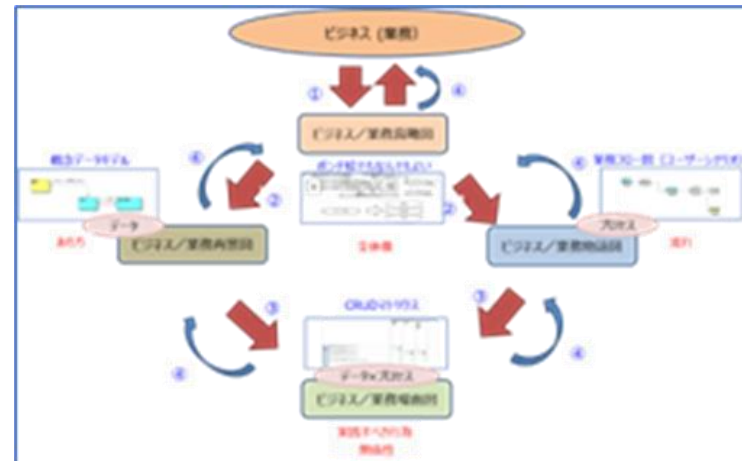
- AsIs (今ある姿)
- 制約／前提を考慮

目指すべき姿／実現すべき姿と黄金4図の関係その2

目指すべき姿 = 要求を表す4図



実現すべき姿 = 要件を表す4図



- AsIs (今ある姿)
- 制約／前提を考慮

目指すべき姿から実現すべき姿へ

目指すべき姿



① 目指すべき姿 = 複数の実現すべき姿
(1 : 多)

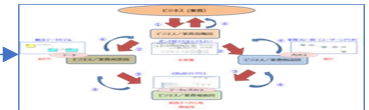
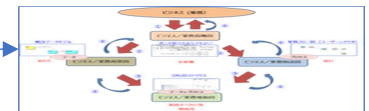
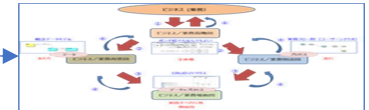
目指すべき姿

実現すべき姿

実現すべき姿

実現すべき姿

実現すべき姿



② 目指すべき姿 = 実現すべき姿
(1 : 1)

目指すべき姿

実現すべき姿



③ 実施見送り

* ①は段階をふんで目指すべき姿を実現していく場合含む

目指すべき姿から実現すべき姿へ

目指すべき姿



① 目指すべき姿 = 複数の実現すべき姿
(1 : 多)

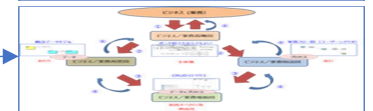
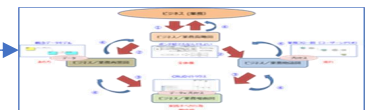
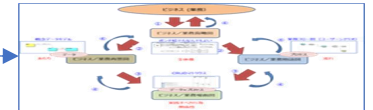
目指すべき姿

実現すべき姿

実現すべき姿

実現すべき姿

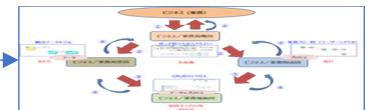
実現すべき姿



② 目指すべき姿 = 実現すべき姿
(1 : 1)

目指すべき姿

実現すべき姿



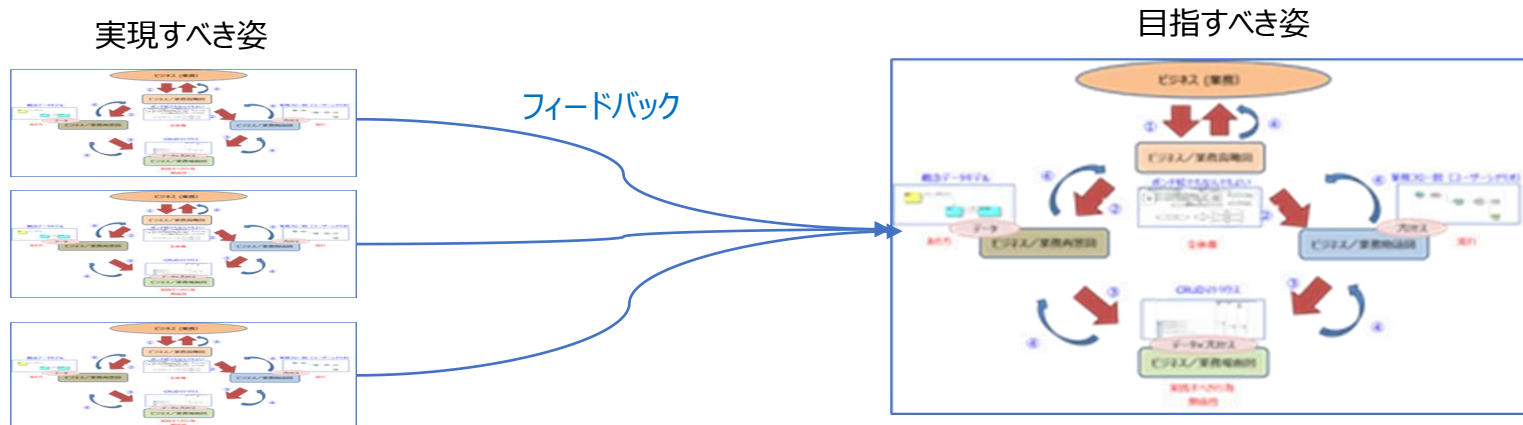
③ 実施見送り

目指すべき姿、物語を創り上げる
段階で中止を恐れない！

* ①は段階をふんで目指すべき姿を実現していく場合含む

実現すべき姿から目指すべき姿へのフィードバック

- 「実現すべき姿」の詳細検討、そして設計、実装とフェーズが進むにつれて「実現すべき姿」が変容を遂げることがあります。
- ビジネスとITに関する「目指すべき姿」に影響がある、変更が必要になると判断した場合は、フィードバックを行い「目指すべき姿」を創り上げた際の目的、方向性を確認し、必要があれば修正を行います。



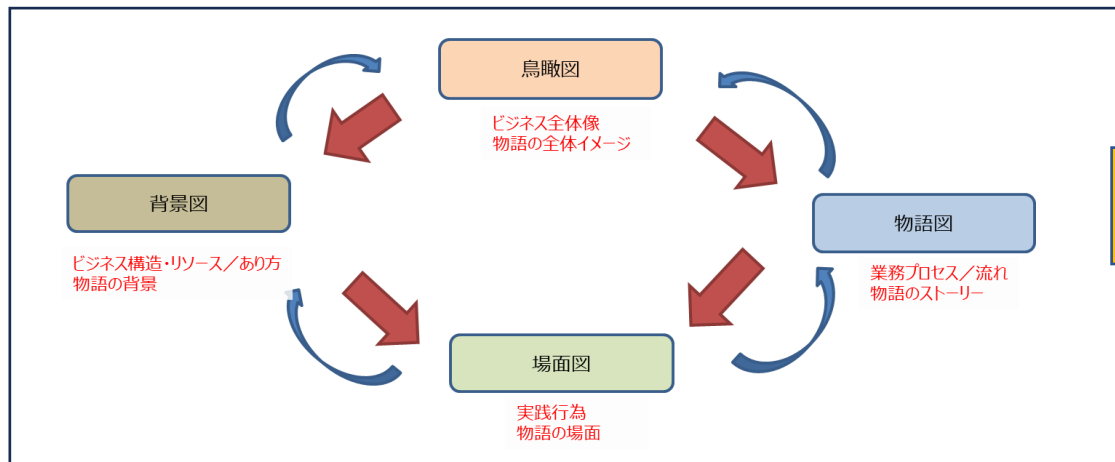
優れた図式は、未来への「ワクワク」を創造する。

- 優れた図式は、単なる情報の羅列ではありません。
- 皆が同じ未来の物語を描ける、ワクワクするようなイメージを共有することです。
- そのために、以下の要素を『ワイガヤ』しながら作り上げます。

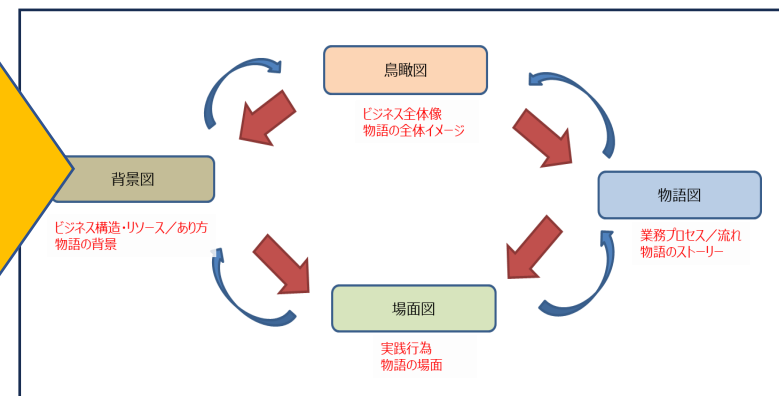
- ✓ ① 物語の舞台（全体像）
- ✓ ② 物語の背景（あり方）
- ✓ ③ 物語のストーリー（流れ）
- ✓ ④ 物語のクライマックス（実践行為）

目指すべき姿から実現すべき姿への継承

目指すべき姿



実現すべき姿

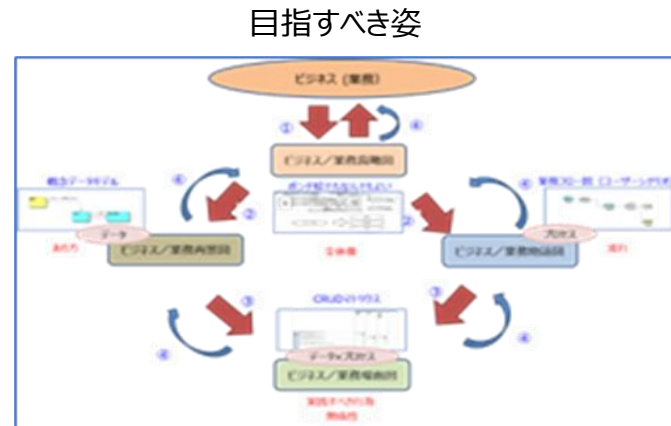


- 目指すべき『物語』から実現すべき『物語』へ
- ✓ 鳥瞰図（舞台）・・・ 全体像を分割し、より具体的な舞台へ
- ✓ 背景図（背景）・・・ 分割・継承して、舞台の背景を固める
- ✓ 物語図（ストーリー）・・・ 分割・独自展開し、より詳細なストーリーを紡ぐ
- ✓ 場面図（クライマックス）・・・ 分割・独自展開し、実践的な行動を明確にする

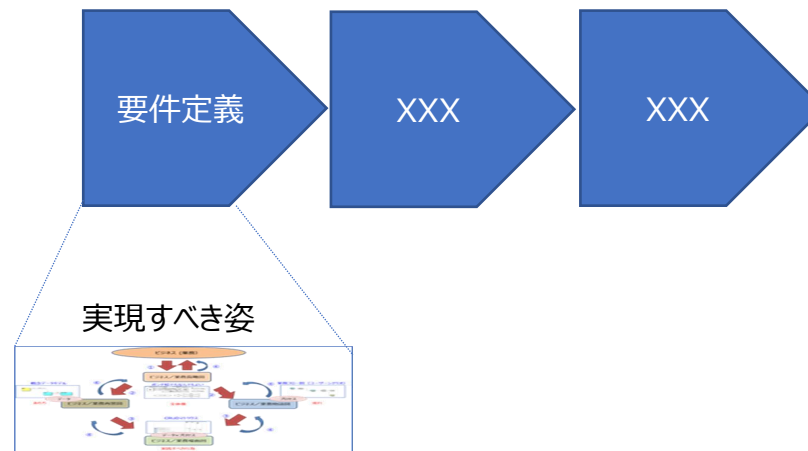
「目指すべき物語」は、日常から生まれる！

- 「目指すべき姿」と「実現すべき姿」は、創り上げるタイミングは異なる！

- ✓ 目指すべき姿を創り上げるのは「日常業務」



- ✓ 実現すべき姿を創り上げるのは「プロジェクトの一工程」



空間を共有することの重要性

- **ライブ感こそが物語を創造する**
 - : 生身の人間同士が同じ空間を共有する「ライブ感」を大切にしましょう！
- **模造紙と付箋紙でもOK**
 - : ホワイボードがなければ、模造紙でも構いません。付箋紙に書いて組み合わせることで、物語の断片を形にできます。鳥瞰図や物語図でも、プロセスを付箋紙に描いて入れ替えることで、背景図の変更も促されます。
- **ワイガヤとアハ体験**
 - : リモートでも効率的に黄金4図を描くツールはありますが、ワイガヤやアハ感覚を**全て共有する**ためには工夫が必要です。

オンラインでの物語創造

➤ オンラインでも物語は作れる！

：リアルな「ワイガヤ」や「アハ体験」の再現は難しいかもしれませんが、オンラインツール（Miro, Muralなど）を使いこなすことで、物語を共有し、協力して創り上げていくことができます。



さあ、あなただけの「物語」を始めよう！

- 厳密なルールに縛られる前に、まずは
「みんなで描ける黄金4図」
から物語を始めてみませんか？
- ✓ 黄金4図の継続性を最大限活用：今までの物語
(今やっていること) を否定する必要はありません。
- ✓ 黄金4図の柔軟性を最大限活用：厳密な記法に書き直す必要はなく、今までの物語を黄金4図という新しい形式に取り込んでいけます。

さあ、あなたの『未来の物語』を描く準備はできていますか？

- あなたのチームは、
目指すべき『理想の物語（ToBe）』
を明確に描けていますか？
- もし描けていないとしたら、その物語の
『プロット』は何が原因で進んでいない
のでしょうか？

お知らせ その1

➤ 近々にワークショップを開催します！



お知らせ その2

- 多くの人に自由に使ってもらえるようなライセンス
(クリエイティブ・コモンズ・ライセンス)
にて公開することを予定しています！



終わりに

- 「鳥の目を持って地べたを這う」

- ✓ 構想を『物語』に！
- ✓ 『物語』を共通言語に
- ✓ 共通言語を未来を創る『変化』に
- ✓ さあ、私たち自身の未来の物語を、黄金4図で描き始めましょう！



ありがとうございました！

